

みなさんの意見のまとめとメインファシリテーターとしての整理

<私の庭>、<公共の庭>、<生産の庭(農)>を区民協働で未来を拓く

1. 私の庭を「区民協働」で地域の財産へと指向する

一つ一つは小さい私の庭であっても、その一つ一つに磨きをかけて、輝かせ、それらをつなげることにより、地域を特徴づける。私の庭に磨きをかける普及啓発活動を地域で積極的に取り組む。それらを見せ合う場として、オープンガーデン(期間限定)や緑豊かなストリートガーデン(通年)、花いっぱい運動等のまちづくり活動を積極的に区にも応援するとともに、情報発信に努める。さらに持て余し気味の私の庭に対しては、地域で応援できる仕組みをつくる。一般的に地域の庭が生き活きとして管理活用されていることにより、地域の安全、安心の向上を目指す。

2. 公共の庭を「区民協働」で生き活き使う

公共の庭(公園)については、行政だけで管理運営していくのではなくて、計画や管理運営については区民と区・事業者が協働で行い、生き活きと利用できる仕組みをつくる。練馬の緑の特徴である「憩いの森」では区民協働で管理運営していく組織づくりに努め、有効活用を図る。また、緑の協力プレーリーダーを配置するなどにより、公園利用を促進し、安全性を高めるようにする。さらに、公園を「遊ぶ場所」、「憩う場所」だけでなく、区民がお互いに「食を楽しめる場」として活用することも考えられる。

3. 生産の庭としての農を地域で支える

体験農園、農の学校、農業公園を充実して、農をサポートする人材を育成することにより、練馬の農業が新しい産業として発展し、農地の増加を図るように応援できる体制を確立する。また、一般区民が練馬の農を「食べて応援し」、一般区民と農家が直接「知り合って応援する(=お得意様になる)」ために、農のマルシェ、直売所について地域でさらに応援する。

4. 庭のゴミを楽しんで地域の宝にする

緑を手入れした後の剪定枝や落ち葉をゴミにするのではなく、手間暇をかけてもリサイクルして、区民協働で楽しく再利用する(手間暇サイクル)仕組みづくりや情報発信を行う。また、農家や学校との連携、落ち葉まつりといった、楽しい企画を積極的に進める。

全体スケジュール(予定)

年度	平成28年度				平成29年度							
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
みどりの区民会議	第1回 12/15			第2回 3/16		第3回 5/11	第4回 6/22		第5回 8/24			

みなさまからの声を募集中です！感想やご意見などをお寄せください！

練馬区みどりの区民会議事務局(環境部みどり推進課みどり協働係 中原)

〒176-8501 練馬区豊玉北6-12-1 練馬区役所本庁舎18階

電話 03-5984-2418 FAX. 03-5984-1227 電子メール midorisuisin04@city.nerima.tokyo.jp

第2回 練馬区 みどりの区民会議

「みどりを守り育てるアイデアと将来像についての意見交換」

平成29年3月16日(木) 18:30~20:30

練馬区役所本庁舎地下多目的会議室

第2回では、22名にご参加いただき、前回見えてきた課題の解決に向けて、地域で区民の共有財産としてのみどりを守り育てる具体的な『管理運営』や『協働』のアイデアを出し合い、これから実現したい練馬のみどりのあるべき姿・目指す姿について話し合いました。

<実施内容>

前回の意見に関する報告と前回の振り返り

練馬のみどりで実現したいアイデア提案についての意見交換と発表<ワークショップ>

現在の練馬区みどりの基本計画の説明

練馬のみどりの将来像についての意見交換と発表<ワークショップ>

今日のまとめ

今後のスケジュール確認



前回の振り返り



ワークショップでの熱のこもった意見交換



みどりの基本計画の説明



各班からのワークショップ意見発表

<ワークショップ> 練馬のみどりで実現したいアイデアについての意見のまとめ (意見出しの方法: ・アイデア(その理由)を書き出し)

地域や区民が主体的に関わり、まちのみどりを共有財産として感じられる仕組みやアイデアがたくさん出てきました。将来像に向かって、区・区民・事業者の役割分担と仕組みを考え、実現化を目指します。()に理由を記載。

<ワークショップ> 練馬のみどりの将来像についての意見のまとめ (意見出しの方法: ・将来像...具体的な活動イメージを書き出し)

将来像という夢や希望から出てきた意見が多く、明るく楽しい将来像がたくさん出てきました。そして、将来像と共にそのみどりでどのような活動を行いたいのかという具体的な活動イメージも話し合いました。

公園・憩いの森・街路樹など公共のみどりの区民協働による計画～活用・管理運営までの仕組み

「地域・区民による主体的な計画から活用・管理運営までの仕組み」

- ・区民や団体が公園や憩いの森をもっと自由に使えるようにする。公共施設を借りてWSや集会をするように(もっと森やみどりを区民に活用させる)
- ・地域で公園の花壇づくりを計画から行い、管理もする!(人と話す場)
- ・みどり担当課が地域振興課を巻き込み、公園の管理を、地域住民主体の自主管理ができる体制にする。
- ・みどりの管理運営の作業内容を明確にして、町内会などへ移行して、我が地域は我々でやるという意識と自覚をもって除草や水やり、落ち葉集めなどの活動をしてもらう(環境維持)
- ・都や国と連携して、地域の都立・国立の施設の手入れにも町会が関われるようにする。(区民にとっては区立も都立も同じみどり。荒れているのが気になる)
- ・緑の良さ、大切さを学べる公園や憩いの森に行く(緑に対する意識を高める)

「公園のコンセプトに合った管理運営」

- ・自治体が公園の管理内容を公園ごとに決める(公園を作ったときのコンセプトはそれぞれ異なるため)

「維持管理の改善」

- ・樹木剪定を適した時期、頻度で行いたい(強く切るにしてもやり方がある。もったいない)
- ・樹木の剪定について、樹種、剪定の時期、低木・中高木・高木による違い等を勉強する(クレーマーに適切な対応ができるだけの知識を身に付ける)
- ・公園の枯れ木を優先的に植え替える(質の向上)

「街路樹・花壇などまちのみどりを増やす・改善する」

- ・歩道が無駄に広い町の緑化(暑さ対策) ・公園に花壇を増やす(心がなごむ)
- ・街路樹について、樹間を取る、樹種を選定、生長を考えて植栽、落葉樹・常緑樹など地域に合わせた樹種を選定、歩道の幅によって植栽を考える(落葉問題解決。景観が良くなる)

「子どもと地域や大学生のみどりとふれあい・利用促進」

- ・ツリーハウス、アスレチックなど自由に楽しく遊べる緑地を、子供たちが気軽に行ける範囲に整備したい(小学生以上にも興味を持ってもらえるような緑地をつくり、みどりに親しむ子どもを増やしたい)
- ・公園の手入れやゴミ拾い、除草等のボランティアをする日を年に1日定める(みどりの大切さを知るキッカケ。公園利用の促進。子ども達の楽しみ)
- ・公園管理委員会メンバーと子ども達とで昆虫生育(命の誕生を見る)
- ・地域住民や子ども達と竹の子シーズンに「竹の子祭り」を実施する
- ・公園管理委員会と地域の親子で花壇づくり。草花を増やしたい!
- ・子どもと公園の手入れ(自分たちの使う公園を大切にする意識を持つ)
- ・いつでも子どもたちが安心して集える環境を整備する
- ・小学生と落ち葉当てクイズ、木の葉の形当てクイズ(様々な樹木があることを知ってもらい、興味を持ってもらう。子ども達が「みどり」に対して良い印象をもってくれれば大人(親)も興味を持つ)
- ・大学生がプレリーダーのようになって、憩いの森周辺に住む子ども達と一緒に遊ぶ(憩いの森に対して「子どもたちだけで遊ぶのは危険!」といった印象を払拭したい)

【公園のみどりの将来像】

「区民参加で楽しみながら整備し、みんなの庭となる公園」

- ・将来の人口減を想定し、今から区民参加の公園づくりを目指す。
- ・区民が楽しみながら整備できる公園(家の近くにある)イベントの場所ではなく、区民の親睦、団らんの場所...高齢者も、自然の元で楽しみ、企画できる場所。
- ・みんなの庭のような公園...自分たちで管理する仕組みを作り必要なお金は区からもらう
- ・設計から工事、管理も区民中心の公園が地域に1か所くらいある練馬...地域のローカルルールで地域の人がたのしく公園をつかっている、責任感も出るし自分達で管理しよう!という気持ちが出る!
- ・地域の人が見守る公園...樹木の剪定や芝の手入れなどできることは自分達です!

「育てて食べられる!キッチンがある! 農のまちをPR」

- ・野菜作って食べられる、キッチンがある農業公園
- ・実がなる木(トチノミ、ヤマモモ)があり食べられる公園
- ・お茶飲みができる公園...ベンチとテーブルがあると良い。
- ・緑によって日陰があり、ベンチやランチのできるスペース。たくさんの器具はらない...公園で、子ども、高齢者が、集えるイベント(小さな公園でも) イベントにはボランティアや区の提案や助成金
- ・子ども達が自由に野菜作りを出来るような公園と料理が出来るような公園又は畑

「アニメのまちをPR」

- ・ドラえもんの中に出てくる公園(土管のある公園?)などアニメの公園を再現した公園

「子どもの自由な遊び場・自然林」

- ・子どもが気軽に(自分の庭のように)訪れられ、遊ぶだけでなく「育む」ことを学べる公園...子ども達が自由に花の種まきを行い育てていく公園(子どもが「育てる」を学べる)
- ・自然林に近い手入れの最小限の公園...子どもが遊ぶには都市公園のセオリーの整備ではなく、自然(人工)の方が面白い。今の公園では秘密基地など作るうともしない。
- ・木登りができる(クスなどの大木)がある公園...人が登ることを想定した整備管理、下が落ち葉でふかふか
- ・子ども達が自由に好きな樹林を植えられる公園
- ・子どもが緑の中で自由に遊べる環境。木登り、ロープ遊び等...極力規制を設けない。
- ・子どもが過ごす(=遊ぶ)ための公園...枝が落とされていない樹木。掃き清められていない(落ち葉、枝の残った)...「遊び方」を伝え、人と人をつなぐスタッフがいる(子と子、子と大人、地域のコーディネート)

「人にやさしい、子どもも高齢者も安心・安全」

- ・子どもが遊べる砂場・遊具のある公園...見張員のいる公園(安全な公園)
- ・子どもを中心とした公園 高齢者の健康維持を目的とした公園...作り変えて行くことも一策か
- ・子どもや高齢者が安全に過ごせる公園
- ・人にやさしい公園(手入れされ、見通しの良い、剪定されたみどり)...楽しい遊び場また行きたいと思う公園。
- ・外から見える公園(見晴らしのいい公園)...安全
- ・公園は年月でやせています。土の公園は風雨で木の根が出てつまずき転んでケガをしたのです。

「芝生」

- ・全面芝生の公園、土ほこりがたたない...地域の住民が子供から年寄りまで参加できるイベントの企画
- ・大きな公園では、芝生は重要な役割 親子、三世代交流の場...管理に多くの予算必要 地域での管理が絶対条件 学校の校庭も同じ

「子どもといきもの」

- ・いきものがたくさんいる公園(ピオトープ等のある)...子ども達といきもの調査をする。トンボを捕まえたり、いきものとふれあう場をつくる
- ・種類の多い樹木があり虫、鳥類の集まる工夫をする

「植物名わかる」

- ・公園内の植物(雑草・花・樹木)がわかる公園 みどりに詳しい練馬っ子...樹名板:イベントで作成、材料:剪定や伐採で出た木 区が提供

「剪定枝で木工教室」

- ・公園の剪定枝で木工教室ができる公園

「多様なニーズに合う公園」

- ・いろんな人のニーズに合うタイプの様々な公園...ボランティア、業者が連携して

「小規模でも家から近く憩える緑地の散在」

- ・土・みどり(草・樹木)と親しめる緑地(公園、団地の中の遊び場等)地域の中に散在、家から近い緑地(小規模で良い)...子どもも高齢者も憩える場所、散歩の途中で休める。

「中高生の居場所」

- ・公園が中高生などの居場所づくり、ステージでコンサート等

「野球ができる大規模公園 基金での免除」

- ・知らない子どもが集まって野球ができるくらい大規模な公園...公園用地を買うための基金集め(緑化計画による大規模な公園・緑地の提供ではなく基金での免除など)

「ふるさと納税の活用」

- ・ふるさと納税を利用した公園...区外の人にも協力してもらい大きくなる公園。ゲーム感覚で豊かになる

「公園や住宅の集約化による公園増」

- ・空間を増やす努力、公園や住宅などの集約で空間を作り、公園増を図る...高齢者との協働で遊べる公園

【街路樹のみどりの将来像】

「グリーンベルト(ケヤキの緑のトンネル)」

- ・例えば、ケヤキの緑のトンネルの街路樹(枝の広がった樹木)など練馬全体に幅の広いグリーンベルトを整備する...練馬区さんぽマラソン(お母さんと子どもで参加)

「街路樹の樹名を通りの名前に!」

- ・街路樹の樹木の名前を通りの名前にする(樹木に親しむ)さくら通り、ケヤキ通り、アカシア通り等...植物、緑に興味を持ってもらう。

「オシャレな街路樹・公園で練馬のイメージUP」

- ・練馬のイメージアップになるようなオシャレな街路樹、オシャレな公園

お庭・保護樹林・屋敷森などの「民有地のみどり」の保全・減少対策の取り組み

「地域の方々のみどりを身近に感じる取り組み」

- ・地域の方々と、みどり・花の一生「季節ごとの様子やサイクル」を観察・考える場所を作りたい（公園は作られすぎている。みどりをもっと身近に感じてもらえたら）
- ・楽しみながら、人と人がつながり、困っている人のためにもなるイベント（落ち葉の困りごとをみんなで解決したい）

「大学生と地域の協働事業」

- ・大学生と地域の人たちが、一緒に落ち葉掃きのアルバイト（区外に出がちな学生を区内に留める、学生とのコミュニケーションで活力UP!）

「植樹を通じたコミュニティづくり」

- ・小学生と植樹（自分たちの成長とともに、樹木の成長を感じてほしい）
- ・ボランティアと地域住民で民有地に苗木を植える（みどりが増え、コミュニティづくりにもつながる）

「農地・農家とのつながり・親しみ」

- ・採れたて野菜でバーベキュー・キッチン（農地、農家と近所の人が親しむ）

「植栽計画による維持管理の負担軽減」

- ・住宅に近い・遠い、落葉樹・常緑樹など、立地条件で樹種を考えて植栽する（剪定回数の減少、負担が減る）

「剪定など維持管理への助成」

- ・剪定に助成金を出すなど安価に業者をお願いできるようにする（自分で手入れできない人を経済的に助ける）

「お手入れ方法の普及啓発」

- ・区報に植物の手入れ方法のコーナーをつくる（今ある木や花を管理できない人や、自分の家でみどりを増やすことを躊躇する人を支援するため）
- ・剪定教室を実施し、卒業生に植木屋のボランティアをしてもらう（高齢で自宅の樹木を手入れできない）

「緑地保全のための税制改正」

- ・緑地減少策の対応。5～10年後に納税のために宅地化になる可能性がある。見極めをどうするか。（緑化率の確保と向上へつなげていきたい）
- ・みどりがある場所は共有財産。税を免除・軽減。

「移植費用の補助による地域の森づくり」

- ・移植費用を補助するなどの制度をつくり、区内各地から維持の難しくなった樹木を集め、森にする。集めた土地は子どもの遊べる森として開放。職員が安全と整備等のため常駐（練馬で育つ子どもの原風景をつくる）

「遊休地の運用・地域での活用の仕組み」

- ・何も使っていない空地に何か植える。区や業者がガーデニングのススメのような講座を開く（緑化に興味を持たせるため）
- ・土地を用意して苗木を育てる。費用は出資を募る。育った木を売る際に出資者はお金が戻ってくる。土地代も合わせて出資してもらい、区の評判が上がれば地価も上がる？（投資にも使え、区の緑地維持にもなる）

【お庭などの宅地のみどり、まちなかのみどりの将来像】

「森のように囲まれた環境の保全対策」

- ・家の今のみどり、森のように囲まれた環境が今後も残ってほしい

「菜園スペース付き住宅 税制上のメリット」

- ・住宅に菜園スペース（これから新しく建てる家など、マンションの屋上になど）...敷地内の %菜園スペースがあれば税制上のメリットがあるとか（住民税が %安くなるとか）

「空き地・原っぱ」

- ・自由に遊ぶ、出入りできる昔でいう「空き地」「原っぱ」...怪我してもよい空間、自由な場所

「区民ガーデン」

- ・区民農園ではなく区民ガーデンのような庭が借りられて区民がそれぞれの庭を楽しめるような場所、ex 街路樹の下などの活用...緑に関わって楽しめる、庭のない人でもガーデニングが楽しめるといい。区でできれば無料で場所を提供してもらえたら。道路わきや公園 etc
- 「お宅に1本ずつ(常緑樹・落葉樹/実のなる木)」

- ・それぞれの家に1本ずつの常緑樹と落葉樹が植えてある街（できれば実のなる木）...互いに愛で、落ち葉がお互い様であると思えるようになれば。鳥もやってくる、子どもとちょっとつまんで食べられる道になる

落ち葉や剪定枝とのふれあい・有効活用、リサイクルの仕組み、宝に変える！

「落ち葉・剪定枝とのふれあい・有効活用」

- ・あえて公園などに落ち葉を集めてそのままにする（転んでも痛くないようなフカフカの土にしたい）
- ・落ち葉の山で楽しんだ後、腐葉土づくり（落ち葉にふれて楽しむ。そして活用する）
- ・落ち葉を利用して、子どもたちと焼き芋づくり（昔の良きコミュニケーションづくり。落ち葉の有効活用）
- ・公園や憩いの森に落ち葉ベッドやカプトムシを育てるベッドをつくる。みんなで落ち葉を入れる（所有者だけでなく、みんながベッドに自主的にためる）
- ・落ち葉や剪定枝を堆肥、チップ以外の木材や燃料、エネルギーとすることが資源化（有効なエネルギーにするリサイクル）
- ・剪定枝の処理を、清掃局に直接持ち込みできるようにする（自分たちで手入れしやすくする）
- ・剪定枝を極力チップとして活用する道を開く（剪定枝をゴミとせず、再利用する。光が丘で実際に行っているが、今は太さ 15cm 以上はチップにできない）
- ・大木を腐る前に材木として伐採（腐ってから伐採すると利用方法が少ない。樹木が面積に対して大きくなりすぎることを防ぐ）

「農家との連携・堆肥づくり」

- ・農家にて、堆肥づくりの再開（落ち葉のリサイクル。野菜作りをし、取れたて野菜での料理を楽しむ）

「経済ベースでの持続可能なリサイクルの仕組み」

- ・区民、造園業者、土地所有者などが、落ち葉や剪定枝を持ち込み、kgいくらかで payback をもらう。それをみどりのリサイクルプラントで堆肥化・チップ化し、それらをまた彼らなどへ販売して、畑や家庭菜園で使うというリサイクルの仕組みを考えて行う（落ち葉を経済ベースにのせて、宝に変える）
- ・落ち葉を清掃業者に出すのではなく、団体が地域の人と共に回収し、腐葉土にして地域に無償で配布。地域の人腐葉土づくりに参加するのも良い。落ち葉掃きで不満が多い場所には、ゴミ入れ（網目）を置き、そこに入れられるようにする（清掃するだけでなく、腐葉土の配布を行い、地域還元することで地域住民に喜んでもらう）

「落ち葉対策への助成」

- ・落ち葉がつまみにくい雨桶設置への助成（落ち葉に関わるトラブル防止）
- ・雨桶の清掃のためのボランティアや補助金（雨桶の清掃が大変という声が多い）

「落ち葉対策チーム・体制づくり」

- ・落ち葉対策チームを立ち上げ、具体的な行動に移す（とにかく早く行動に移すことが大事）
- ・造園業者が落ち葉に関わるボランティアをする（落ち葉の課題解決に業者の技術を活かしたい）

ワークショップの内容を要約・整理して掲載しています。

農地や休耕地の活用

「農地・農家とのつながり・親しみ」

- ・採れたて野菜でバーベキュー・キッチン（農地、農家と近所の人が親しむ）

「休耕地の運用・地域での活用の仕組み」

- ・休耕地などで、年に何度か家庭ではなく地域菜園を作り、採れた野菜を地域イベントで活用（緑に関わるきっかけづくり）

【農地のみどりの将来像】

「誰でも気軽に利用できる農地」

- ・誰もが気軽に利用できる農地がある...市民農園のように申請しなくても地域の人であれば使える農地として整備
- ・農地の開放があって農業を農家の方に教えてもらいながら楽しみたい...区の助成（農地をかりる）

「子育て支援施設のある農園 農園保育、親の就農促進」

- ・子育て農園：農園保育。就農したい子育て母。ヤクルトのように内部保育園...子育て支援施設が農園の中にある。子育て世代が参加できる。作業の指導だけでなく、幼児の預かり合いなどのコミュニティをコーディネートできるような職員が不可欠

「小中学校の農地の拡大」

- ・小中学校の農地を大きくする

「子どもが自由に採って食べられる畑・果樹園」

- ・木になっている実を取っても怒られない果樹園？畑...子どもが自由に採って食べている 甘いものばかりでない 売られているものでない
- ・子どもが農業を体験できる農地...農家の方にレクチャーを受ける収穫体験

「農地の宅地化時の緑地の活用」

- ・農地が宅地化する時に小さな緑地の設置があるが、集約し大きな公園に努める 多様性の公園...将来の展望有る公園 学校の教材

「生産緑地制度終了分への対策 都市農業の産業化」

- ・生産緑地制度の終了分の対策必至、都市農業の産業化を推進...農業の株式化... JA の改革

その他（既存活動団体・制度の見直し、新たな制度の導入）

「緑化協力員制度の見直し」

- ・緑化協力員制度の見直し（廃止も検討）

「環境監視員制度の導入」

- ・自然環境等による汚染等を監視し、行政等に助言する「環境監視員制度」の導入（落ち葉を含むゴミの清掃にすぐ対応するため）

「活動の仕組み、活動団体と地域の連携・つながり」

- ・各活動グループを全部取り上げて、やっている活動内容を明確にして、統廃合や効率の良い活動へ結びつけていく（現状を整理したい）
- ・ボランティア団体と住民の連携づくり（10～20 年後には荒れたみどりが増える。みどりを整備するためのつながりをつくる）